

# 成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

有限会社総合劇集団俳優館

所在地	愛知県名古屋市	設立年	1990年
運営主体	有限会社総合劇集団俳優館		
事業目標	子どもたちが自由な発想を持ち、のびのびと自由に表現ができるようになること。また、これを目指すうえで学校現場への負担を軽減する目的を果たすこと。		
きっかけ	<p>子どもたちが様々な活動に対して能動的に取り組む機会を継続的に設けることは、学校現場のみではなく地域で総力をあげて取り組むべき課題であると言えます。ただ、部活動における学校や教員の負担は大きく、結果、子どもたちが能動的にのびのびと活動に取り組む環境が作られていないのが現状です。</p> <p>そのため、地域の活動として子どもたちが主体的に活動でき、さらにのびのびと自由に表現が出来る環境づくりを実施していくべきであると考え、本事業を立ち上げました。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	名古屋舞台芸術協会スタジオ(俳優館スタジオ)		
活動概要	<p>子どもたちが主体となって、表現者となり、学校現場では専門的で扱いにくいであろうミュージカル作品(歌やダンスの入った作品)を作り上げる。地域で活動する役者や演出家が、作品作りのサポートを行う。</p> <p>①～9月 参加者を募集・決定。          ②10月 演劇に関するワークショップ          ③11月～2月 作品制作          ④3月 制作発表</p>		

## ○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

今までお芝居や歌・ダンスを経験したことのない子どもたちが、芸術分野に触れる機会を得ることが出来た。一般募集で参加者を募ったため、参加した子どもたちの活動に対する意欲も高かった。子どもたちのみでオンラインを活用した自主練習を計画したり、表現方法を子どもたちから提案するなど。

事業の最後に、参加した子どもたちと保護者の方々から「楽しかった」「みんなと出会えてよかった」「初めて子どもがこんなにも熱量をもって取り組んでいる姿を目の当たりにすることが出来た」と伺うことが出来た。

また成果発表を観に来たお客様からのアンケートによると、回答者の全員から「とてもよかった」と回答頂いた。また「来年度以降このような企画があったら身近にいる小中学生に参加を勧めたいか」の質問には、回答者の全員から「とても勧めたい」「まあまあ勧めたい」との回答を頂いた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

子どもに表現方法を押し付けるのではなく、子ども自身が、与えられた役・セリフ・シーンの中で「どんな表現をしたいのか、どう感じるのか」を考えて表現することに重きを置いた。そのためあまり動きの指定はせず、「どうしたい?」「どう思う?」という問いかけや、子どもたち同士の話し合いを多く取り入れた。

## ○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

お芝居やミュージカルに参加したことの無いお子様や保護者様が多数だったため、参加するにあたって、基礎的なところから説明する必要があった。主にメールで共有事項を頻繁に連絡した。

普段、お子様と離れる時間が少ないご家庭も多く、稽古場でどんなことをやっているのか不安に思われる保護者様もいた。そのため、メールの文章だけでなく稽古時の写真や動画を共有した。

また、コロナ対策の為、本人が体調不良でなくてもクラスが学級閉鎖になった場合等は、稽古を休んでもらうこともあった。その際、稽古時にお休みの子どもとオンラインでつなぐ等のフォローをした。

感染症対策の為、PCR検査を1回、抗原検査を2回実施した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

予算にゆとりがなかったため、事務人件費を捻出するのが難しかった。感染症対策や感染症拡大によって変更しなければならぬこと(成果発表の会場を市内の文化施設【有料】にしたことにより、予定より経費がかかった等)があったため、活動経費は少ない印象だった。

当初名古屋市内の小学校の体育館で公演する予定だったが、コロナの関係で学校からストップがかかってしまった。コロナ禍で成果発表を教育機関や地域と連携して行うために、今後、屋外や広い会場で、観客の密を避けた体制が整ったうえで学校関係者を招待するなどの取り組みが考えられる。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

参加する子どもも、成果発表をみる子どもや大人も、子どもたちが初めてお芝居をしている姿に感銘を受けることが今回わかった。今後成果発表をする場合は、より多くの人に観客になってもらうことを目指すべきである。

特に、学校の教員が、普段接している児童・生徒の舞台に立つ姿を見ることで、学校現場に生かせるヒントを得ることができるのではないかと考える。成果発表の際は、事前に学校関係者に広く企画を周知すると良い。

また、部活動の地域移行が進めば、教員の教育現場での負担が減り、子どもと接する際のパフォーマンスがある可能性がある。空いた時間で、このような事業に参加する子どもたちを観に行き、新たな刺激を得ることが出来るかもしれない。地域の活動に教員が関わり、相乗効果を生めるような計画を立てられると尚良いと考える。

部活動を地域に移行することで、複数の学校の児童生徒が一緒にひとつの目標に向かって挑戦することが出来る場をつくりやすくなる。普段学校で人間関係に悩む子どもや不登校気味の子が本企画に参加し、結果、日々の楽しみを増やすことができたという声を実際に頂いた。放課後、学校ではないところで気楽に活動する場があるということは、非常に意義があるのではないかと感じた。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『[地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト](#)』を参照すること。

以下、今後事業を継続する場合に考えられる方針

参加者 (予定人数)	小学生～中学生 約30人
募集方法	名古屋市内の文化施設置きチラシ、子ども会での配布、学校での通知
指導者	地域で活動する俳優・演出家・歌唱指導者・振付家
移動手段	保護者による送迎、可能な子どもは公共交通機関を使つての移動。
活動費用	
スケジュール	6月～8月・・・参加者を募集・決定。9月・・・演劇に関するワークショップ。 10月～2月・・・作品制作。3月・・・制作発表
保険加入等	特になし

※文化庁ホームページ: [地域文化倶楽部\(仮称\)の創設に向けた検討会議](#) [事例集](#)を参照

掲載URL

([https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/pdf/92801101\\_09.pdf](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf))

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

